

15 水・電気・ガスのない生活

地震の後、人々はどのような生活をしてきたのか考えよう。



地震のため、ほとんどのところで、水道や電気が使えなくなりました。都市ガスも止まりました。たちまち生活がたいへんになりました。

「寒いよ。」ストーブは動きません。「のどがかわいた。」水道をひねっても水は出ません。「おなかがすいた。」ごはんをたたくことも、あたたかいみそしるを作ることもできませんでした。水洗トイレもすぐに使えなくなりました。みんなで、少しの食べ物やのみ物を分け合って、体をよせ合ってすごしました。

水道が使えない間は、手をあらうことや、お風呂に入ることもできませんでした。きゅう水車が、水をとどけてくれたときは、たくさんの人たちが列を作って、長い間ならんで水をもらいました。

みんな、がまんや工夫をして生活をしなければなりませんでした。



でんきこうじがいしゃかたはなし
電気工事会社の方の話

でんきつか
電気が使えないと、みなさんがこまります。はや
早くふっきゆ
うさせようとこうじかんけいしゃ
工事関係者みなでがんばりました。ひがしにほん
東日本
だいしんさい
大震災のようなおお
大きな災がいのときは、でんきとお
電気が通るまでじかん
時間
がかかることがあります。そのようなき、どうしたら
いか、みなさんもふだんからかんが
考えておいてください。



すいどうでんきつか
水道や電気を使わないで、せいかつ
生活できるかな。
みんなでかんが
考えてみよう。



すいどうつか 水道が使えないとこまること	どのようにしたらよいか
〈きれい〉て 手をあらえない	〈きれい〉ウェットティッシュを つか 使って手をふく
でんきつか 電気が使えないとこまること	どのようにしたらよいか



ふりかえり
